



真夏の暑さが照り付けています。7月号の「そしきクンが行く!」は、旭川市内「永山地区会」担当の第1弾です。今月号は、ダンボールメーカーと教育機関の2社を訪問。各社とも試行錯誤しながら、地域密着を目指して一生懸命でした。さあ、リーダーとしてどんな思いで頑張っているのかな?

森川総合紙器(株)

代表取締役
森川 唯志さん

所在地 / 旭川市永山1条12丁目1-21
電話 / 0166-48-4191 FAX / 0166-48-4193

企業データ

設立 / 1957年8月 資本金 / 1000万円
従業員数 / 15名 入会 / 2005年10月
紹介者 / 榎黒川ベニヤ商会 取締役総務部長 黒川 志保さん

業務内容

段ボールケースの企画・設計・製造・販売および紙器をはじめとする包装資材の販売

主力商品・サービス

段ボールケース(オーダーメイド)、紐ダンボール、引越用ケース、文章保存ケース、紙器、紙袋、PRバンド、クラフトテープ、ポリ袋、その他包装資材全般

“包む”ことを使命に、新たな物流時代にチャレンジ!



Q3:御社のビジネスの転機とは?

日本の物流の歴史は、袋から木箱そしてダンボールへと変わってきました。現在は地球環境にやさしい、リユース、リデュース、リサイクルの考えからリターンブルコンテナへの移行が行われています。当社は段ボールケースの生産が主体ですが、時代に後れることなく敏感に適合し、物流に関わって行きたいと考えます。

Q4:御社のこれからの抱負や目標をお聞かせください

受注産業である段ボールを考えると、地域の皆様の繁栄が当社の繁栄につながるわけです。それはそれでとても良い事なのですが、それだけでは今以上の発展は望みづらいと考えます。そこで、お客様・同友会の皆様のお力をお借りして新たな技術・新たな商品を創造し、地域に貢献したいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

Q1:趣味はなんですか?

趣味と言えるほどのものはありませんが、遊ぶことなら大歓迎です。最近子どもが遊んでくれなくなったので、庭の草むしりもたまには好いかと思ひ始めています。

Q2:御社の魅力とは?

または御社にお仕事をお願いするとどんないい事がありますか?

段ボールケースは、商品の輸送形態として最も有効な手段と考えられています。また、地域密着型の産業でもあります。1927年の創業以来、あらゆる業種のお客様と共に考え蓄積したノウハウと技術を駆使し、商品をその用途に適した形で経済的に包むことを使命と考えます。

そしきクン(取材者)よりひと言

経営論においてオンリーワンという言葉がよく交わされます。けれども、世の中に打ち出の小槌はなく、そう簡単に各社が世界唯一の商材を持つことなど不可能です。ダンボールはまさに独自色の出しづらい商材のようですが、森川社長のところに不安はありません。経営の基本とは需要のある物をきちんと供給することであり、それを頑なに守っていれば余計な声に惑わされる必要はないということです。大切なことを思い出させてくれた訪問となりました。

株式会社あさひ素材 社長 鷹野 健太郎

学校法人 旭川大学

理事長
山内 亮史さん

所在地 / 旭川市永山3条23丁目23-1-9
電話 / 0166-48-3121 FAX / 0166-48-2636

企業データ

設立 / 1951年3月
従業員数 / 167名 入会 / 2005年12月
紹介者 / 柳原工業(株) 社長 柳原 正司さん
(株)創明建築設計事務所 社長 三嶋 幸利さん

業務内容・主力商品サービス

学校教育(大学院・大学・短大・専門学校・高校・幼稚園)

地域に根ざし、人としての豊かな生き方を学ぶ大学



Q3:御社のこれからの抱負や目標をお聞かせください

本学は、学生にとって「情報と知識の広場」であり、「発見」や「出会い」の広場です。限られた時間を大いに学び、社会へと巣立って欲しいです。本格的な少子化時代に突入して学生の確保がますます困難になりますが、本学が「ミニ東大」になっては意味がありません。やはり、この地域(道北&旭川)特有のニーズに対して、大学の持つ「知」の資産を提供することで、より存在感が増すのではないかと思います。特に、本学には経済の専門家が多く在籍していますので、企業家の皆さんには大学の存在や私たちの取り組みを知っていただき、存分に活用していただきたいです。

そしきクン(取材者)よりひと言

旭川大学にお邪魔して、学長の山内様と30分ほどお話をさせていただきました。私の娘が旭川大学附属幼稚園に通っており、山内学長はリーダーシップのある改革者との噂を耳にしていたので、今回は「改革」をキーワードに色々なお話を頂くことにしました。私は普段、情報を得たい時に大学に聞こうとは思っていませんでしたが、それはもったいない事だと気付きました。「共同研究」というような大袈裟な接し方に限らず、地域ともしっかりとした交流ができる大学が山内学長の目指す姿だと感じました。あとは、私たちがその門を叩くだけなのかもしれません。

株式会社あさひ素材 社長 鷹野 健太郎

Q1:旭川大学の魅力はなんですか?

「地域に根ざし、地域を拓き、地域に開かれた大学」が建学の理念です。大学は経済学部経済学科と経済学部経済法学科の1学部2学科制で、個人としての生き方や考え方を身につけていく、少人数制の教育環境が整っています。

Q2:貴校のビジネスの転機とは?

昭和の時代に日本中で大学が乱立し、結果として点数や偏差値の優劣によって大学の良し悪しが決められる風潮になりました。しかし、本校は「旭川」という地域無くして存在できません。近年は「地域にどう根ざすのか?」を重点に置き、学問を深めるのと同様に地域の人々や各機関との交流、連携にも力を入れています。